



ぬくとまる

協力隊何やっているの？

こちらから



秩父弁で「ぬくとまる」は「あたたまる」です。ウェルビーイング通信を読んだ方の心がほっとあたたまりますように。

年齢を重ねるごとに美しく！チャレンジを恐れない薬剤師！

皆さん、こんにちは！横瀬町地域おこし協力隊ウェルビーイング担当の近藤です。今回「ぬくとまる」ではじめて横瀬町出身の女性にインタビューをさせていただきました。逸見知子さんは現役の薬剤師でありながら、2023 年度に「予備自衛官補」に応募し、見事、試験に合格。訓練を経て、現在、次のステップである「予備自衛官」を目指されています。年齢を重ねるごとに、さらに輝き、チャレンジを続ける逸見さんの想いをお聞きしました。それでは、逸見さん、よろしくお願いします！！



医療法人花仁会秩父病院
薬剤課課長 逸見知子さん

❁ Q1. 薬剤師として勤務する中、自衛官になろうと思ったきっかけはなんですか？

きっかけの一つとして、新型コロナウイルスが爆発的に流行をした 2020 年以降、医師や看護師の業務のひっ迫問題が浮上する中、同じく医療従事者である薬剤師は世間から注目されることはありませんでした。業務的にも患者さんとは間接的な関わりしかなく、あの頃は、薬剤師としての存在意義について自信を失いかけていました。そんな時に、横瀬町の保健師から「コロナワクチンの薬の調整を教えて欲しい」と依頼があり、薬剤師の私もワクチン接種に携われることになりました。

この事例は、一市四町の中でも横瀬町だけで、とてもやりがいがあった記憶があります。このような経験を経て、あと 10 年で定年退職を迎えると考えた時、約 30 年以上の薬剤師としてのキャリアを自分や生活のためだけに活かすのではなく、今後は、人や社会のために役立てたいと強く意識するようになりました。ある時、何気なく開いた「広報よこぜ」に、薬剤師の「予備自衛官補」の募集が目飛び込んできました。「求めている社会貢献の役割はこれだ」と直感的に感じ、私の年齢でも応募できることを確認し、すぐに記載されていた電話番号に連絡。早速、担当者に会いに行き、薬剤師の経験を自衛官として活かしたいと熱き想いを伝え、その後、受験しました。

❁ Q2. 自衛官へのチャレンジをきっかけに何か自分の変化などはありましたか？

合格後、訓練に向けて体力的な不安がありました。秩父病院は職員の健康増進にも力を入れており、連携施設の「秩父メディカルフィットネス」を利用し、トレーナーの指導のもと体力づくりに励みました。当初は、3 歩だけでも膝が痛くなっていましたが、3 カ月あたりから段々と走れるようになりました。実際の訓練では急歩（早歩き）のみで、身体を鍛えてきた成果もあり心身共に余裕がありました。継続は力なりを実感した体験です。私が訓練を受ける同月に能登半島地震の災害があり、有事的な出来事を含め、自衛官の役割を自分事としてリアルに受け止める機会にもつながりました。

❁ Q3. 今後の目標や新たにチャレンジすることなどあれば教えてください！

薬剤師としての今後の目標は、自身の知識や経験を、医師との連携の中で積極的に提供し、医療従事者や患者の皆さんの役に立つことです。自衛官としては、現在、「予備自衛官補」の立場なので、今後も訓練に参加し「予備自衛官」として任用され、有事に招集される立場になりたいです。また、どのような現場でも薬剤師として臨機応変に対応できるよう、さらなるスキル向上を目指し、継続的な学習に取り組むつもりです。できないことを考えるより、できることを考えた方が、人生は楽しいし、前に進めると思っているからです。何歳になっても、直感的にやりたいと思ったことを、やりたいと思った時に、チャレンジできる人になりたいです。これからも楽しみですよ！

最後に、秩父地域の医療体制は検査、治療、手術、入院ができないと懸念される声が多いと聞きます。実際は、そんなことはなく、この地域にも技術の高い医師など医療従事者の専門家がいるので安心して下さい。利用しないと秩父地域の医療機関も存続が困難となります。お金も大事ですが、ぜひ、記念日には、健診・検査を積極的に受け、健康第一で楽しい人生を過ごしてください！！